

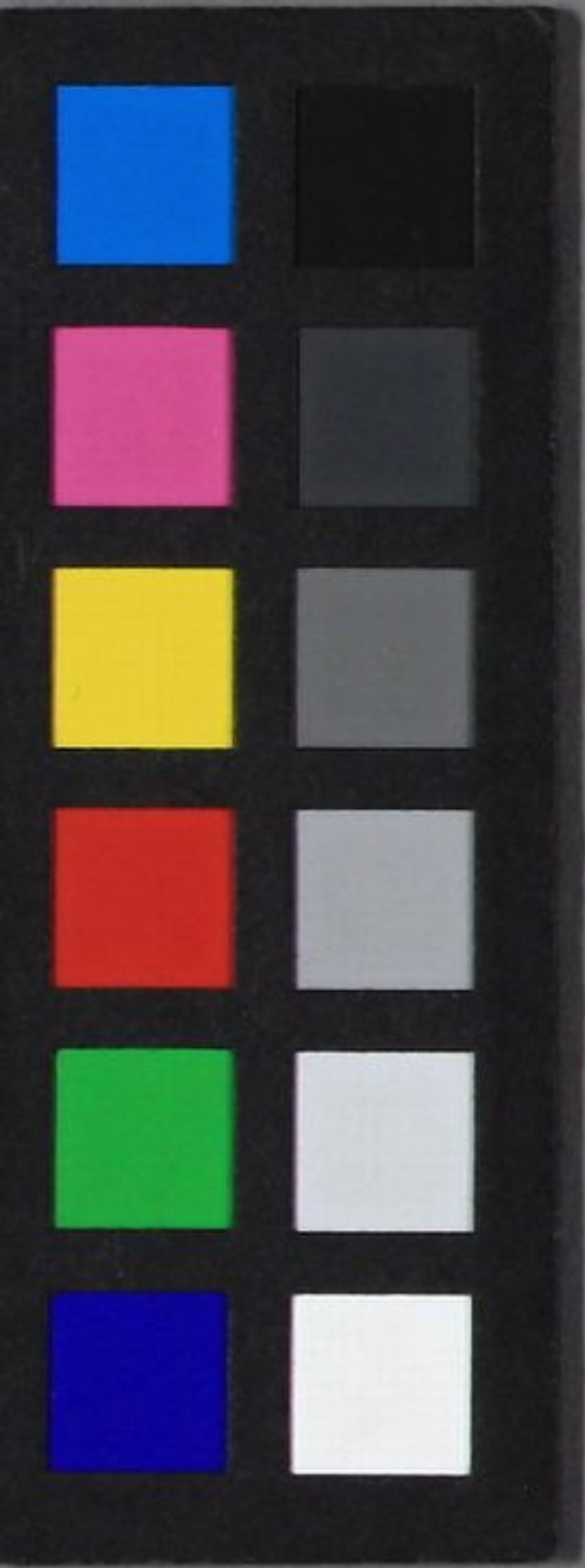
明治四年辛未十一月

萬國新聞

第十一號

東京書林

北白旗兵衛  
山中兵衛





18特  
115  
11

萬國新聞第十一號

シヤパンヘラルド新聞第二千五百三號

明治四年辛未十月廿六日刊行

一昨夜北日耳曼領事官イ。サツペ氏西波戸場邊通行の節海中之人ありて叫ぶを聞きて同氏直ちに水中に飛入り辛くして其人を岸に引揚ぐしと瑞典の武士乃酪酊を飲者あり若し此イ。サツペ氏之を救ふ可あり然るに必定溺死せらるゝかたむし

イ。サツペ氏ハ斯の如く厚意を以て水に溺れんと欲する者を





救ひあれとを助ぐられを流者ハ僅乃賤民と云々其功少  
アト若し救ハ流れハ暗夜と云々近所ノ人を在ら流れハ  
忽ち溺れ死し其後サツペ氏ハ之ヲ爲と寒暴を患ひて病床  
と臥せりと云實と仁惠の所業と謂ふるし

シヤパンガゼツト新聞

明治四年辛未十月廿六日刊行

アルゲマイネゼイキユング〔新聞紙の名〕は先日奧地利國帝  
讓位の評説ありて云々尙又今度ニウ・ウイ・ネルタフブラッ  
トと云ふ維納の新聞に委々く再出せり近頃再度公務に與  
りてアルゲマイネゼイキユングハ太子ルドルフ弱年乃

問攝政たるべき由なりトツプスボルグ〔字帝家名〕の歴朝ハ  
ハ屢々讓位の例ありテチャーリス第五世ルドルフ第二世及  
シ今帝ハ先代も皆讓位の帝王なり今度讓位の評説起る所  
の原因ハ未だ精細ニ言わば然れども勿論推量ハ此事能ハ  
流るるハ非流るるハ當今の帝ハ在位既ニ二十三年に迄ハ  
リ此帝の如く幼年の時不思議ニ王位ニ登リ艱難の事を容  
易く裁斷せしむる實り世に稀なる事なり此帝王權ヲ取テ  
正に革命の半ニ有リ若し其時一時の勝利を得て此國を  
一和スル事を得ハ必決諸方の騷動限りなる事ハ外に戰  
争ありて内不和ありハ其帝ハ流者無數の艱難を爲流るる



汲得ハ埃地利帝ハ此艱難を凌ぎて其功成志を了り然るも  
今其位を辭し埃地利國ヲ獨立の帝國と爲せしハ其下民  
一致し日耳曼列國の同盟を尙親睦と爲し其專望めを  
り去せしハ埃地利人の内ハ思慮なく志々其日耳曼人の  
歸服せし當今の政を妨ぐべきと欲する者あり是を以て埃地  
利國の民心分裂復は事常よきを甚しと云

シヤパンガゼット新聞

明治四年辛未十月十日横濱刊行

水師提督ケルシット氏ハ少しく快方ヲ赴きて依てオシエ  
ン艦に乗して新嘉坡ニ往くるべき支度ヲ爲せり同所にて其

官職を他人に譲り夫より飛脚船にて本國ニ歸るへし

今月中亞瑪港より人足を載せハシアナ船に向て出帆する  
船ハ既ハ三艘及ぶ其人數總計八百五拾六人を以  
上海に於て米國飛脚船會社にて上海ニ大なる船橋ヲ浮  
ちり其長ハナシン船ヨリミンユン道ニ達す

○

次の新聞ハ支那飛脚船の報告あり曰く吾輩近頃聞く日本  
政府にてハ自國の爲み支那の人足を雇はせんと志々移住役  
所を開き爲し日本官人數名廣東に到着するありと日本  
てハ支那の人足を雇ひて何事を成せんとするを知らず然り



と雖も浮説非浪吾輩現に此程廣東府より乃布告を見し  
よ日本は役人右の目的にて既り到着し移住役所取開きの  
事を管理する爲め廣東府より支那官吏二人よ之を命じ  
た

キングス及びメーニルと云二人の歐羅巴人ペナン鈍ノ  
デリ得て其使役する支那人足り殺害されたり殺害する  
は者ハ追捕されしと云

傳舍人にて釋賣渡世城兼ねるるハン。デル。ボルグトハ享  
年五十三よりバタヒア鈍に於て其財貨被掠奪され其上殘  
酷に殺害されたり殺害するは者ハ捕縛されありと雖も其

罪を一身り引き受て同奏の者を白状せしハン。デル。ボル  
グトの一族ふてハルケヒツセルハ年二十三より其貴族  
乃者なきとも性質甚ち荒暴なり此者掠奪されたり財貨一  
萬千五百フランクを取戻さる

ボルネオ鈍にシユルタン歸るハ新嘉坡に於て木造の螺旋  
形に蒸氣船の造營を命じらる

ストヒイツ鈍に生れたる支那人多人數將來の一揆騷動預  
備の爲め歐羅巴士官の配下に屬する兵隊を編成し以て支  
那政府に爲めに報せると新嘉坡の近村にハ一揆の殘黨

相集りて猶戰爭ありと云



暹羅帝ハ來ル十二月印度に往ル其との『企てあり依リシン  
ガポーニ(地名)とバタヒヤ(地名)と』黃銅より鑄造したる高  
四尺の象を各一頭はくと贈き其運送方ハ暹羅の蒸氣  
軍艦イニミイチエーセル餘り積籠み高官の人之城守護と  
往くと云其外右兩國乃奉行及び役人ハ暹羅帝印度へ  
赴きたる印しと云々奇麗なる褒賞印を送るる事  
ノルマン領に裁判所の重役を殺害したる旅人を探索し其  
信實の手掛り報知したる者へ賞金として三千ルーピー  
〔貨名〕を與へたり

ページ氏ハ歐羅巴人及び日本人合併の兵隊を率ひて新嘉

坡よリペナン(地名)に到着したる此兵隊ハ猶ラングン(地名)  
及び印度に赴く途中ある

アゾフ船先達る破船し猶アモイノ岩礁の上りあり遁き  
事を勤めて多分ハ其荷物を運出ししを此船猶遁き事成  
望み船將其他の役人ハ船中ニ留り器械方火焚及び水夫等  
ハ香港へ向て出立せり此船は破損の原因ハ纜が突出し  
るを檢ね爲めなりと云

シヤパンガセット新聞

明治四年辛未十月廿七日刊

去る土曜日夕六字前横濱吉原町ニ出火し暫時に廣りたり



記去る千八百六十六年乃横濱大火也其一樣なるは火勢  
なりし廊中の右側より起り且は千方ゴ一鈍りて燈火の顛  
倒せしよ其發りるは大火と殆ど一樣なり此時正に北風強  
く居留地は方よ其火烟を吹起し吉原の周圍も在る沼を越  
る飛散せり傍の家は燃付るありし幸り空地ありて焼く  
は去りども出火せし處より空地迄の間小流き土藏被除き  
其他焼失せり我等昨日見分せしむ恰も大地へ黒印せし如  
くにして棒切一流も残らぬ盡く灰燼とあり唯其焼跡も表  
札而已と建てり

山手も於て是を見し者ある其炎の迅速なる事大抵同時に燃

移り二時の間を出るはして廣らばし由かり此時有り於ては  
尙數百家も焼失なり其景況を記死人の殊の外數多かり焼  
死せし人の體に聞らばれども沼を越へんとして橋より押  
し落れり或は大數乗合し舟の覆れあると由て死せし者過  
半を察昨日は終日沼より死體を引揚たり又一小屋の下り  
在りし死體男女小兒共十五人之下らぬ

周圍に在る沼も架せは橋の欄干充分なるは察しは最を議  
論を生演へし且は又唯出火の時のと用也はとては橋の數  
少なきは甚ち不可なり併し今度此大火災有りて其實檢を爲  
るれば橋の欄干の入用は一同より出銀はる事疑ふし



日曜日朝日昇の頃ハ類焼くゝるは者既ハ焼材木を集め圍と成せ況又昨夜の内ハ其焼く跡へ假小屋と設けし者あり  
四十人ハ死體を見出せし由役所へ届りあり併し其余百人餘の往方と知らぬ多分ハ無難なるを由とす

英國飛脚船着新聞

當月二日香港より太平洋及び大東洋飛脚船ソングー號第十月廿日の英國飛脚船と今夕入津せり

シヤパンヘラルド新聞第五十二號

明治四年辛未十月廿八日刊行

歐羅巴及び亞米利加ヲ遣はるる日本ノ使節ハ次の官員ナ

右大臣岩倉。參議木戸。大藏卿大久保。工部大輔伊藤。外務大輔山口。あり

附屬ノ第一等書記官ハ外務少丞田邊。外務大記鹽田。福地源一郎。など

第二等書記官ハ渡邊小一。柴田大記。川路簡堂。米田敬治。あり  
右ハ外大藏兵部文部工部外務及び神祇ハ諸省ニ屬せる諸官人多ク隨行を命ぜられり蓋し各々其職務ニ關係せし事務を學ひ得て歸國ハ上日本政府へ委詳ハ建白せり爲ふに及し此使節ノ入費を算當ハ必二十萬圓ニ下らざるは是迄米國飛脚船會社の船に乗て洋行しる者既に



五十人あり條約の改正ハ來年の末ニ至テ此使節歸國の後  
三月あらはれしハ落着せられし

